

第3学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「つたえたいことを、理由をあげて話そう」 教材名「お気に入りの場所、教えます」

2 単元の目標

相手を見て話したり聞いたりし、抑揚や強弱、間の取り方に注意できる。場所のよさが伝わるように、理由と経験を挙げ、中心を明確にして話の構成を考えられる。言葉の働きを確かめ、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①相手を見て話したり聞いたりし、抑揚や強弱、間の取り方に注意している。（〔知識及び技能〕(1)イ）	①「話すこと・聞くこと」において、場所のよさが伝わるように、理由と経験を挙げ、中心を明確にして話の構成を考えている。（A(1)イ）	①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

(1) 単元について

お気に入りの場所を、選んだ理由とそこでの経験を結び付けて紹介する。場所の設備の列挙にとどめず、自分が気に入った理由が話の中心として伝わる構成にする。学習指導要領のA(1)イを中心に据える。関連する知識・技能として〔知識及び技能〕(1)イを、言語活動の中で確かめる。

(2) 児童について

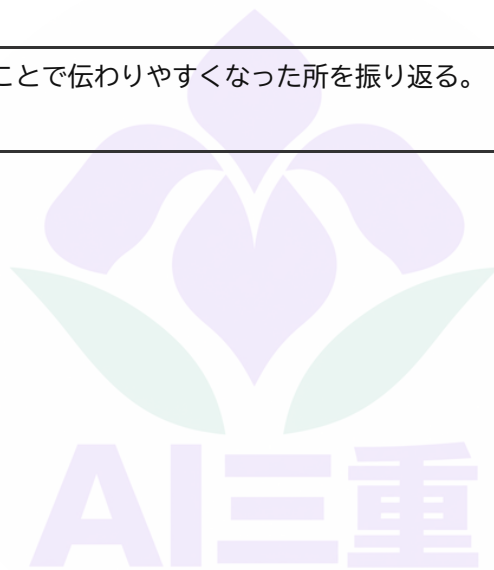
(学級の子どもの様子を先生が書く)

(3) 指導について

場所・気に入っている理由・その理由が伝わる経験を分けてメモする。話を聞いた児童は中心を短く言い返す。地域や家庭の事情による経験差を比べず、校内の場所も選べるようにする。おおむね満足できる状況は、場所のよさが伝わるように、理由と経験を挙げ、中心を明確にして話の構成を考えているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

5 指導と評価の計画（全8時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○紹介する相手と目的を確かめ、候補の場所を出す。	学習状況を見て支援する。
第2次	2	○その場所のよさと、よさを感じた経験をメモする。	知①（語句や内容の整理）
	3	○話の中心に合う経験を選び、紹介の順を考える。	学習状況を見て支援する。
	4 （本 時）	○理由と経験が伝わる構成か、メモを使って話して確かめる。	思①（発言・学習記録）
	5	○聞き手の質問を受けて必要な説明を加える。	学習状況を見て支援する。
	6	○中心が伝わる話し方を、声や間に注意して練習する。	学習状況を見て支援する。
	7	○紹介を聞き合い、それぞれの場所のよさと理由を確かめる。	学習状況を見て支援する。
第3次	8	○構成を変えたことで伝わりやすくなった所を振り返る。	態①（学習前後の記録・振り返り）



6 本時の指導 (4/8)

(1) 本時の目標

場所のよさが伝わるように、理由と経験を挙げ、中心を明確にして話の構成を考えられる。

(2) 学習過程

段階	学習活動 (○主な発問) ・予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	本時に使う教材・前時までのノートを確認、自分の最初の考えを短く書く。 ○「その場所を気に入っている理由が伝わるのは、どんな経験を話したときですか。どの順で話すと中心が伝わりますか」 【めあて】お気に入りの場所を、選んだ理由とそこでの経験を結び付けて紹介する。 〈予想される児童の反応〉 ・場所の名前だけではよさが伝わらない。	本時に考える対象を確認し、既に確かめたことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。
展開 (分)	○「その場所を気に入っている理由が伝わるのは、どんな経験を話したときですか。どの順で話すと中心が伝わりますか」 紹介する場所のよさ、そう思う理由、自分の経験をメモに分け、中心が伝わる順に並べて話の構成を作る。そのメモを見て相手に話し、聞き手が捉えた中心を言い返す。伝えたい中心との違いを基に順序を調整する。 〈予想される児童の反応〉 ・場所の名前だけではよさが伝わらない。 ・そこでしたことを話すと理由が分かる。 ・全部の思い出を話すより、中心に合う経験を選びたい。	場所・気に入っている理由・その理由が伝わる経験を分けてメモする。話を聞いた児童は中心を短く言い返す。地域や家庭の事情による経験差を比べず、校内の場所も選べるようにする。 想定する難しさ：施設の説明や道順だけになる。楽しいからという理由の繰り返しになる。 児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。 ◎思① 場所のよさが伝わるように、理由と経験を挙げ、中心を明確にして話の構成を考えている。(話の構成メモ・聞き手の応答を基にした修正)
まとめ (分)	【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって確かめたことを対応させて自分の言葉でまとめる。 学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。 〈予想される児童の反応〉 ・友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。 ・全部の思い出を話すより、中心に合う経験を選びたい。	まとめの文を先に与えて写させず、児童が本時に扱った実際の言葉を入れる。書くことが難しい場合は口述を記録する。次の学習では、その記録を使って自分の表し方を確かめる。 ◎態① (学習前後の記録と、見直した理由)

(3) 板書計画（縦書き・右から左へ）

右端に題名と本時のめあて。その左に問い「その場所を気に入っている理由が伝わるのは、どんな経験を話したときですか。どの順で話すと中心が伝わりますか」。中央は根拠となる言葉・本文の箇所と、そこから考えたことを上下に対応させる。根拠の本文は先生が教科書から書き入れる。中央から左に児童の考えを並べ、同じところを囲み、違いの理由を線で結ぶ。左端に、本時で確かめた実際の言葉を含むまとめと、考えを見直した理由を書く欄を置く。縦書きで右から左へ学習の順をたどれるようにする。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

